

中体連地区大会の思い出

今から遡ること40年、当時中学3年生。中体連地区大会が2週間後に迫った私は、はやり目（流行性角結膜炎）で出席停止になっていました。中学校から始めた剣道が大会等でも少しは勝てるようになって面白くなり、中学最後の地区大会を経て、自身初の県大会出場を目指していた時期でもありました。

当然ながら学校へは行けず、稽古もままならない中、家で素振りの日々。大会前日に医師から「大会参加大丈夫」の認可を受けはしたものの、みんなと一緒にの行動はできず、試合直前に会場へ、終わればすぐ帰る。個別の控室から面をつけ試合し、控室で面を外す。「練習しないで大会に出たほうが、リラックスしていい結果が出るぞ！」などと根拠のない励ましを友達から受けながら、試合に出場したものの、奇跡や神風が起こるはずもなく、県大会出場の夢は儚くも破れさりました。

大会が終わった後は、ずいぶんと落ち込んだものですが、今振り返ってみれば、あの時の悔しさや行き場のない気持ちがその後、高校・大学・教員になっても剣道を続ける原動力になった気がします。

「晴れてよし 曇りてもよし 富士の山 もとの姿は変らざりけり（山岡鉄舟）」勝っても、負けても一生懸命取り組んできたなら、その事実は一生の思い出として心の中に残るはずです。

週末から始まる中体連地区大会。無観客試合となりますが、子ども達が人生に刻む良き体験となることを願っています。

藤川俊彦（6月14日更新）